

平成 30 年度第 3 回高知県社会貢献活動支援推進会議（要旨）

開催日時：平成 31 年 1 月 22 日（火） 10：00 ～ 12：00

場 所：高知会館 4 階 やまもも

議 題：次第参照

1) 第 4 次高知県社会貢献活動支援推進計画（案）について

事務局 資料 1、2 について説明。

会 長 私は資料 2 の番号 2 が大事な指摘であると思う。NPO 法人数の増加が取組の成果目標として掲げられていることから、一見するとそこが強調されてるように見えるのかもしれない。しかし、私が心配していることは、少子高齢化と人口減少だ。私も中山間地域で活動しているが、担い手の多くが 60 代後半から 70 代で、10 年後のことを考えると非常に心配だ。その一方で、高知大の地域協働学部や高知県立大の学生達が地域に入って活動し、色々な役割を果たしているが、これからはどれだけ若者を巻き込んでいけるのかが重要になる。そのためには、若者が地域の活動に関わっていく文化を作っていかなければいけない。文化は 1 年、2 年ではできない。5 年、10 年かけて、若者が自然にそういう活動に関わり、担い手になっていくという文化を作っていく必要がある。そこで第 4 次計画案を策定するに当たり事務局にはそういった視点を入れるよう強くお願いした。また、ナツボラは非常に熱心に実施されており、大変うれしく思っているが、その取組をもっと広げてもらいたいということもお願いした。

今回の計画案では、重点策という書き方はしていないが、強いて言えば、社会貢献活動をしていく裾野を広げる時期が要るということで、『『気軽に社会貢献活動』の気風づくり』や「若年層が参加しやすい仕組みづくり」という取組目標を掲げていると考えている。これが 5 年経って実を結んだ後、次の計画で質的な向上を掲げ、それに向けてどのような取組をしていくのか考えていけばいいと思う。

委 員 計画の作成に当たりアンケートを実施しているが、アンケート結果を計画の冊子の中に掲載しないのか。計画案の本文中にも必要なアンケート結果は記載されているが、他の計画では資料としてアンケート結果を全て掲載しているものもある。

事務局 計画案にアンケート結果を全て掲載するのかについては検討する。

委 員 地域で活動している団体や、任意団体、NPO 法人などの多様な団体が、それぞれの地域で、多様な活動をしていくことが、高知県にとって一番良い状態だと思う。しかし、計画案で行われている課題整理は NPO 法人に限定され、他の団体の課題が見えないまま具体的な施策が作られ、NPO 法人に特化したものにな

っているところがある。現在、高知大や高知県立大が地域に入って活動しているが、その中ではNPO法人ではない地域住民の団体と連携している。そういった団体でも後継者不足や、資金調達に課題があり、それに対する施策も重要だと思うので、そういったことも考慮して計画案を作成できれば良かった。

また、資料2の番号2で指摘されている計画の重点策が一番のポイントだと思う。任意団体の活動なども含めて社会貢献活動が広がっていくことが重要だと思うが、計画案ではNPO法人数が増えることを取組の成果目標にしている。任意団体のままで活動したいところもあると思うので、もう少しその辺りを踏まえた議論ができれば良かった。

そして、ナツボラに関しては、応援してもらい、非常にありがたいと思っている。しかし、ナツボラの実施にあたり、ボランティア・NPOセンターと教育委員会が連携していく中で色々な壁を感じる。今、教育委員会は学力向上に向けて動いており、地域活動であるナツボラは学校で十分紹介してもらえていない。そこで計画のP.24に実施団体として教育委員会を載せるだけでなく、ナツボラを実施する中で、教育委員会とどんな連携をしていくか記載できれば、よりナツボラの推進が図られると思う。

事務局 成果や課題の分析などについては、社会貢献活動を中心に活動しており、毎年度事業報告書を提出していることなどから、正確な情報が得られるNPO法人を対象に行わざるを得なかったが、計画全体としてはNPO法人に特化したものにはなっていないと思う。

会長 計画案については、NPO法人に限定しているものではなく、対象はもっと広く、社会貢献活動を行う団体を含んでいるという説明が事務局からあったので、そのことを議事録に残すことでよろしいか。

委員 了。資料2の番号2の指摘についてはどうか。

事務局 回答にも書いているが、重点策という言葉は第1次～第3次の計画には無く、今回の計画案でも記載していない。その代わりに、今回の計画案では2つの取組目標を定め、多くの県民が社会貢献活動に参加することで活動の活性化を目指すこととし、その活性化の度合いを測る指標の1つとして、NPO法人数の増加を取組の成果目標としている。

委員 資料1の4ページの「(2)支援策」に、重点策という記載ではないが、これまでの計画が何に力点を置いて取り組んできたのかということが書かれている。当初は量的な拡大であり、次に協働や質的向上、寄附文化の醸成というように、時代時代に応じた支援を行ってきたことがわかる。この流れを考えると、若者に裾野を広げる取組と同時に、裾野を広げるためには、既存の団体の質的評価を行い、質の向上を図る取組を、平行して行っていくことが必要だと思う。

事務局 質の向上を図ることは大事な観点だと思うし、これまでの推進会議でも質的評

価について議論してきたが、質を評価する指標がなかった。そのため、今回の計画案では、裾野を広げ、若者を中心に気軽に社会貢献活動に参加してもらうことで、活動の参加者を増やし、参加者が増えることで活動団体も増やすことを目標にしている。その延長線上に社会貢献活動団体の質の向上があると考えている。

会 長 他に何か意見はあるか。

委 員 私の団体では、これまでナツボラを受け入れてきたが、次回から受入を一度止めることにした。理由は、お願いしている業務の専門性が高く、ボランティアに来る方の9割以上が1日しか来ることができない現状では、職員の指導の下、補助的な雑用をやってもらうことしかできない。また、「今から5人で行きたい」、と言ってくるような方も出てきており、そういった方への対応に時間がかかっている。団体としては、こうしたことに人員を割くことが難しくなっているため、ここで一度止めることにした。

資料2の番号2の指摘への回答でも出ていた『気軽に社会貢献活動』の気風づくりはすごく重要だと思う。私が活動している室戸市周辺で感じているのは、若者がNPO法人を立ち上げるための情報が少ないということだ。地域おこし協力隊の任期を終えた若者が何か事業を始めようとした時などには、個人事業主としてやっていくのか、会社を興すのかという中で、NPO法人を設立するという選択肢もあると思う。そういった時に法人設立のアドバイスをしたり、事業を行う団体を作る前からサポートできるような体制があると良いと思う。

会 長 NPO法人の設立や社会貢献活動の実施に向けた相談支援については、これまでもボランティア・NPOセンターが実施している。今後はその機能を充実して欲しい。

ボランティア・NPOセンター NPO法人の設立や社会貢献活動の実施に向けた相談支援はこれからもやっていくが、今後、社会貢献活動を広げていくには、NPO法人の設立や社会貢献活動の実施に関する情報提供を受けられるところが身近にあると良いと思う。ボランティア・NPOセンターは高知市にあり、室戸市などからは地理的に遠いので、市町村にその役割を果たして欲しい。そのためには県と市町村が連携していくのか、もしくは市町村社協等がボランティアの支援を行っているのか、その一環で市町村と連携していくのかは分からないが、今後は市町村が地域の社会貢献活動を支援することが必要になってくるのではないかなと思っている。

ナツボラについては、学生側としても連続してボランティアに参加できる日を確保するのは難しい事情がある。部活や補習などの合間を縫って1日だけでも参加したいという気持ちも分かるので、ジレンマを感じる。ナツボラで紹介している活動によっては1日だけの参加でも良いものもあるし、3日続けて参加することでスキルを覚え、4日目、5日目で円滑に活動ができるものもあるので、学生

と活動のマッチングは大きな課題だと思う。

会 長 市町村による地域の社会貢献活動の支援については、市町村との関係づくりということで推進会議でも議論してきたが、市町村に社会貢献活動が認知されていなかったり、市町村の窓口がはっきりしていないことなどから、難しいということだった。そういったこともいずれ整理し、進めていかなければいけない課題だということは共通認識として持っておいた方が良いと思う。

事務局 社会貢献活動における市町村の役割については、条例にも記載されているし、今回の計画案の含め、これまでの計画でも記載している。現状、県と市町村は日常的につながりを持ち、連携して何かに取り組んでいるという状態ではないが、年に1回、市町村とNPO関係者を集めたネットワークづくりの会を開催したり、土佐町、黒潮町、津野町にはNPO法人に関する権限移譲を行っている。今後は、県と市町村との関わりをもう少し密接にしていくべきではないかということか。

ボランティア・NPOセンター そのとおり。例えば先ほど室戸市の話が出たが、権限移譲されている黒潮町ではNPO法人の設立などの相談を受けている。他の市町村も権限移譲されれば黒潮町と同じようになるのであればそうなって欲しい。NPO法人の設立などの具体的な事務手続きはボランティア・NPOセンターで支援するが、社会貢献活動団体を増やしていくのであれば、地元にも相談を受けられるところがあるというのは重要なことだと思う。

事務局 資料1の15ページに「各主体の相互のパートナーシップの確立」ということで図を示しているとおおり、今回の計画案では、社会貢献活動団体が真ん中にあり、それをボランティア・NPOセンターがしっかりと支え、そこに県が助成することになっている。そして、そういう軸がありながら、社会貢献活動団体、県、市町村、県民、事業者がそれぞれ連携・協働することで相互のパートナーシップを確立し、社会貢献活動を盛り上げていくことを目指している。県と市町村についても連携・協働していくことになっているので、その中で考えていきたい。

委 員 NPO法人については、認証があり、事業報告書の提出などがあり、県で状況を把握できるが、任意団体の状況の把握は進んでいない。今はボランティア・NPOセンターが一部把握しているぐらいだろうか。県が市町村の担当部署を通じてであったり、県社協が市町村社協を通じて任意団体の状況を把握することはできないか。任意団体の状況が把握できれば、各市町村間での競争も生まれ、社会貢献活動の活性化につながると思う。今回の計画案では、そういったことも加味しながら取組を進めて行ければ良いと思う。

委 員 先ほども出ていたが、高知県のNPOが直面している大きな課題は人口減少、高齢化だ。こうした状況の中、今回の計画案では学生や若者など新たな層に対して社会貢献活動への参加を促していくことになるので、計画案の文中に人口減少、高齢化についての記載を入れた方が良いと思う。

また、人口減少、高齢化の中で、誰が社会貢献活動の次の担い手になるのかということも考えなくてはならない。地域の人だけで活動を担っていいのか、あるいは県外のような地域外からの応援が必要なのか、判断していかなければならない。県外などからの応援を受けるのであれば、今後、連携・協働をどんどん進めていくことが必要になる。また、最近、関係人口という言葉もよく耳にするが、誰が高知県の社会貢献活動の担い手になるのか、という範囲の議論もしていくべきだと思う。それによって、例えば、高知県のNPOと県外のNPOとの連携・協働を促進していくための支援策を整備すべきか、という議論も出てくると思う。

そして、県にも市町村社協のボランティアコーディネーション機能の強化を考えてもらいたい。市町村社協は、地域が抱えている課題や、地域の任意団体や社会貢献活動の情報も結構持っていると思う。東西に広い高知県にあって、市町村社協がしっかり中間支援の役割を担うことは大事であり、それがしっかりしてくるとこれからの社会貢献活動の展開も違ってくるはずなので、今後検討してもらえればと思う。

あとはSDGsに関して言うと、これはこの先の10~20年の重要なキーワードであり、全国的にも動きが加速しており、NPOだけではなく、企業や自治体を含めた、あらゆる団体がSDGsの目標達成に向けて取り組んで行こうという機運が醸成されてきている。ただ、高知県ではSDGsに対する認識が非常に低いと思うので、今後、県はSDGsの取組に対してどのような役割を担ったり、支援をしていくのかということを考えていってもらいたい。

会長 今後の高知県の社会貢献活動の担い手の範囲の話、市町村社協の機能強化の話、SDGsの話については、早急に議論して今回の計画案に入れるものではなく、次の第5次計画に向けて検討を進めていくべき重要なポイントになると思う。

人口減少、高齢化の話については、取組目標にも関わってくることなので、計画案のどこかに1行程度入れておくと良いと思う。入れる箇所については事務局で検討してもらいたい。

事務局 了。今回の計画案に人口減少、高齢化に関する記載を入れる。入れる箇所は事務局で精査し、改めて各委員にお示しする。

あと、今後の高知県の社会貢献活動の担い手の範囲の話、市町村社協の機能強化の話、SDGsの話についても、今回の計画期間の中で検討を進め、次の第5次計画につなげていきたいと思うので、各委員には引き続き協力いただきたい。

会長 SDGsについて、県全体としてどのような取組をしていくのかという話が出ているか。

事務局 SDGsの視点を意識しながらどのように事業を組み立てていくのか、各分野で検討が始まったばかりであり、まだ具体的に何か言えるような段階ではない。

委員 社会貢献活動を地域で広めていくためには、市町村で核となる中間支援組織が

大事になると思うが、市町村社協は色々な業務をやっており、中間支援に力を注げない。やはり県や市町村が市町村レベル、あるいは地域レベルで中間支援を行う組織を作っていくべきだと思う。

また、県は市町村に対して社会貢献活動への色々な支援施策を作っていくよう、もっと働きかけていくことが重要だと思う。そのためには、県と市町村の連携を進め、普段から両者が社会貢献活動についてやりとりできるようにしておくべきだ。そして、次なる支援の形として、市町村による社会貢献活動への支援を考えていって欲しい。嶺北地域ではそういったことがうまく進みだしているところもあると聞いているので、そんなところをモデルにして考えていけたら良いと思う。

委員 県社協と市町村社協はどういった関係なのか。ボランティア・NPOセンターが持っているNPOに関する情報などを市町村社協に情報提供したり、両者で情報共有するようなことはあるのか。

ボランティア・NPOセンター 両者の関係は、市町村社協が県社協の会員である。センターが持っているNPOに関する情報はピッピネットに掲載しており、そこから市町村社協も情報を得ている。

また、ピッピネット以外でも、例えば、地域の中でNPOのネットワークづくりをしようという情報があり、市町村社協が入ることでより機能する組織になるようであれば、市町村社協にもそのネットワークに入ってもらえないか話をしていくこともできる。

2) その他

会長 何か他に協議しておくべきことはあるか。

事務局 推進会議の公募委員の選考について協議させていただきたい。

現在の推進会議委員の任期は今年度末を持って満了となり、同時に2名いる公募委員の方々の任期も満了となる。これに伴い、新たな公募委員の募集を行い、応募者の中から委員を選考することになっている。

公募委員の選考に当たっては、毎回、公募委員選考委員会を開催しており、今回も同様に開催をしたいと考えている。4月1日付けで各委員に辞令を出す関係上、年度末までに募集と選定を行うというスケジュールを想定している。

公募委員選考委員会の選考委員だが、過去の開催状況を確認したところ、推進会議委員から委員長1名、委員2名を選ぶようになっていた。委員長は認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議の委員に、2名の委員については、1名は学識経験者の委員の中から、高知大と県立大の委員を交互に選んでおり、前回の委員会では高知大の委員が選ばれていた。残り1名の委員については、高知市地域コミュニティ推進課の委員に務めていただいていた。このことを踏まえ、今回も

同様の形で進めていきたいと考えている。

会 長 まずは、公募委員の選考を、これまでのやり方を踏襲して実施していくのかについて諮ってはどうか。

事務局 では改めて、新たな公募委員の選考方法について決めていく。先ほど説明した公募委員選考委員会を開催するという、これまでの選考方法を踏襲したやり方で実施してよいか。

<異議なし>

事務局 了承が得られたので、今回もこれまで同様の選考方法で実施していく。

続いて公募委員選考委員会の委員長と委員を決めていく。こちらもこれまでと同様に、認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議の委員を委員長に、学識経験者の委員は、前は高知大の委員だったので、今回は県立大の委員に、もう1名の委員は高知市地域コミュニティ推進課の委員に、それぞれ務めていただくこととしてよいか。

<異議なし>

事務局 こちらも了承が得られたので、今回の公募委員選考委員会は、委員長を認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議の委員に、学識経験者の委員を県立大の委員に、もう1名の委員を高知市地域コミュニティ推進課の委員に、それぞれ務めていただく。なお、委員長と委員の方には追って詳細を連絡するので、よろしくお願ひしたい。

会 長 他に協議しておくことはないか。ないようなので、「2) その他」の協議は以上とする。

皆さんのおかげで、第4次高知県社会貢献活動支援推進計画案は、まだ若干の修正が入るものの、一応確定した。ただ、今回の推進会議では第5次計画に向けていくつかの課題も出てきたので、第4次計画を進めながら、その課題を引き続き検討していってもらいたいと思っている。

それでは司会を事務局にお返すする。

事務局 会長、ありがとうございました。

今回の推進会議での協議を踏まえ、パブリックコメントへの回答を行う。

また、提案いただいた、計画案の中に全てのアンケート結果を掲載する件、人口減少、高齢化に関する文言を計画案に追記する件については、事務局で検討し、改めて案を作成し、各委員に確認した上で最終的な確定とさせていただく。

計画案の確定後は、庁内で決裁を受け、2月県議会に報告する予定だ。計画の冊子については、来年度作成するので、作成でき次第、皆さんにお送りさせていただく。

また、皆さんの任期が今年度末で満了することとなっている。公募委員以外の方については、引き続き委員の就任を依頼したいと考えているので、何卒よろし

くお願いしたい。もしも引き続き委員に就任することが難しい場合は、後日でも構わないので事務局まで申し出て欲しい。

それでは、以上で平成 30 年度第 3 回高知県社会貢献活動支援推進会議を終了する。

以上